

修学旅行で農業体験

能美市が誘致 南加賀初

能美市は農業体験メニューを用意し、県外からの修学旅行の誘致に乗り出した。28日は第1号となる横浜市の中学生171人が来丸町の田んぼを訪れ、コシヒカリの苗を植え、最新機器で農家の労力を抑える「スマート農業」を体感した。市によると、南加賀では初の試み。金沢を旅行先に選ぶ学校が多い中、近郊にある田園地帯に生徒を呼び込み、リピーターの獲得につなげる。



能美市は昨年秋から、農業体験での修学旅行受け入れの準備を進め、大手旅行会社などを通して働き掛けを進めてきた。農業体験の際には、周辺の農家10人程度が手伝う態勢も整えた。

能美市を訪れたのは、横浜市立港南台第一中の3年生。28日は北陸新幹線で金沢駅に到着後、小松市粟津温泉のテーマパークを経由して、来丸町で田植えを体験した。

地元の農事組合法人「和多農産」が管理する約2千平方メートルの田んぼで、生徒ははだしになり、ぬかるんだ泥の感触や見つけたカエルに歓声を上げながら、苗を手で植えた。法人が所有するロボット田植え機に乗り、現代の農業にも触れた。同校によると、修学旅行

田植えを体験する修学旅行生

能美市来丸町

第1号は横浜から 中学生 田植えで歓声

で北陸を訪れるのは昨年に続き2回目。昨年は山代温泉や福井県の永平寺などを見て回ったが、移動時間が長かったことから、今年は金沢市とその近郊での旅行を企画した。昨年11月に同校の教職員が能美市を視察し、金沢から車で約30分という近さなども考慮して同市を訪れることにした。辰口温泉の旅館「たがわ龍泉閣」で2泊する。

能美市での農業体験について松岡秀彦校長は「金沢の歴史的な街並みに加え、その近くで自然に触れる体験ができるのは魅力的」と話した。初めて田んぼに入った太田瑞希さん(14)は「農業の大変さが分かった。修学旅行にこんな経験ができてうれしい。大人になって能美市に来てみたい」と笑顔を見せた。

能美市の担当者は「農業や九谷焼など産地ならではの体験型観光を強化して修学旅行を誘致し、関係人口の増加につなげたい」と語った。